

令和2年度 第3回 安曇野市総合教育会議 会議録

日 時 令和3年3月9日（火）午後2時から午後4時32分

場 所 安曇野市役所 4階 大会議室西

○出席者

市 長	宮澤 宗弘	教育長	橋渡 勝也
教育長職務代理者	唐木 博夫	教育委員	須澤 真広
教育委員	横内 理恵子	教育委員	二村 美智子

○補助のため出席する者

教育部長	平林 洋一	学校教育課長	沖 雅彦
生涯学習課長	臼井 隆昭	文化課長	山下 泰永
学校教育課学校給食センター長		小笠原 正明	
学校教育課教育指導室長		赤羽 文恵	
学校教育係長		櫻井 義之	

○事務局出席者

学校教育課課長補佐兼教育総務係長	太田 雅史
学校教育課教育総務係	岩原 遼子

○傍聴者

報道機関	1名	傍聴人	1名
------	----	-----	----

◎開 会

教育部長 それでは、定刻を若干過ぎましたけれども、ただいまから令和2年度第3回総合教育会議を開会いたします。

私は、教育部長の平林でございますが、本日の進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

なお、本日の総合教育会議は公開として行わせていただきますので、よろしくお願をいたします。

◎市長挨拶

教育部長 それでは、初めに宮澤市長からご挨拶をお願いいたします。

市長 どうも、皆さん、こんにちは。

大変陽気も暖かくなってまいりました。年度末ということで卒業式を控えているわけですが、本年第3回となります総合教育会議を開催させていただきました。それぞれ教育委員の皆さん方には、お忙しいところご出席を賜り、心から御礼を申し上げます。

また、平素から安曇野市政はもとより、市政における教育行政についても多大なご尽力を賜っておりますこと、改めて感謝を申し上げたいと思います。

総合教育会議、ご案内のとおり、教育の振興、文化の振興を図るといふことの重点的施策、そして児童生徒に対しまして緊急の場合に講ずるべき措置などについて、教育委員会と私ども行政が問題意識を共有しながら共に解決に当たっていくということでございます。そんな目的で設けさせていただいております。

本年は、特に新型コロナウイルス感染症の影響を受けまして大変な時代といえますが、年でありました。感染状況を見ながらそれぞれ節目節目で総合教育会議を開催させていただきました。学校の再開、また公民館、文化施設などの利用再開の状況、課題などについて協議をしまいたところでございます。小中学校は校長先生をはじめ、学校関係者の皆さん方のお力によって、授業の遅れを心配しておりましたけれども、取り戻すことができたという報告を受けております。

学校行事などのいろんな行事、これは教育関係だけでなく、市全体のいろいろな活動が停滞をし、制約を受ける年になりましたし、中止あるいは延期を余儀なくされた行事等もたくさんございます。そんな中で、児童生徒、保護者の皆様方、学校関係者の皆様方にはいろいろ

ろな面で負担がかかったということではありますが、修学旅行なんかも中止になってしまった学校もあるようで、子どもたちの思い出づくりが若干欠けてしまったかなという思いが致しております。

教育委員会所管の公民館・体育施設・図書館・博物館などの利用も制限を余儀なくされた年でありました。そして成人式、これも既に新聞報道等で発表になっていましたけれども、11月21日の日曜日に新総合体育館で行う予定に変更となりました。市民の皆さん方にはこれからもいろいろとご理解、ご協力を賜りたいというように思っております。

新年度予算の審議が始まっておりますが、新型コロナウイルス感染症に関わる様々な支援策、議会最終日に上程をさせていただいて、補正予算を組む予定になっております。いよいよ2月12日からワクチン接種対策室を設置させていただきまして、全庁的な業務協力体制をしいたところでございます。円滑な接種が実施できるように準備を進めております。

いずれにしても、国のほうがワクチンが輸入頼みというようなこともございまして、どの程度基本的にきちんと各自治体に配分をされるのか、これも動向を見ながら、市民の皆さんの要望に沿いたいというように思っております。一日も早く感染の収束を願うところでございますが、ちょっと先行き不安定というような状況であります。

本日の総合教育会議のテーマは、『“たくましい安曇野の子ども”を目指す安曇野市立小・中学校の将来構想（案）』でございますが、これについて、活力ある学校、そして地域に頼りにされる学校をどのように運営をしていくか、少子化の時代で難しいかじ取りを迫られると思いますが、教育委員会の皆様方のご協議を賜りたいということでございますので、是非よろしくお願いを申し上げます。議論を深めていただいて、あるべき安曇野の教育について一定の方向が見いだせればいいなという思いでございます。

その他、報告事項になりますけれども、令和3年度の学校教育グランドデザイン、それから国のGIGAスクール構想の進捗状況、既に電子黒板やコロナに対応するための設備の充実であるとか、あるいはGIGAスクールで新年度から小学校1年生から子どもたちにパソコンが1台ずつ配付をされるというような時代、大きく変化をしております。これらに対応できるような教育環境を整えていっておりますので、あとは先生方の指導体制がしっかり整っていかねばいけないというように考えております。

いずれにいたしましても、交通安全ゼロプロジェクトなどいろいろな構想がございますので、これらの報告をしていただいて議論を深めていただければと考えております。時代の変化の中で大変保護者や教員たちの意識も大きく変革をしている時代でございます。教育委員

の先生方におかれましては、活発なご論議をいただき、安曇野市教育のためにご尽力を賜りたいと思います。

私のほうからは、以上を申し上げて開会のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

教育部長 ありがとうございました。

◎教育長挨拶

教育部長 続きまして、教育委員会を代表し、橋渡教育長からご挨拶をお願いいたします。

教育長 本年度第3回の安曇野市総合教育会議に当たりまして、教育委員会を代表してご挨拶申し上げます。

宮澤市長におかれましては、平素から市の教育行政に多大なご尽力を賜り、また、本日の総合教育会議の開催をしていただきましたこと、誠にありがとうございます。

改めてこの1年を振り返ってみますと、2月の政府による全国一斉の休校要請や4月の改正特別措置法に基づく緊急事態宣言の発令の際には、市内小中学校の対応について総合教育会議を開催していただいたり、教育委員会の臨時会を開いたりしてご協議をしていただいた上、方針をその都度決定してまいりました。その結果、これまで経験をしたことのない困難な状況ではありましたが、子どもたちの心身の健康や学びの継続を主眼に置いて、迅速かつ適切な対応を主体的に進めることができたと考えております。

おかげさまで、市内小中学校はこれまでに新型コロナウイルスの集団感染等の発生もなく、今日まで大きな混乱もなく、落ち着いた学校生活を継続し、間もなく卒業式を迎えることができる状況になってまいりました。改めて宮澤市長、教育委員各位に深甚なる感謝を申し上げます。今後とも学校と連携しながら、緊張感を途切れさせることなく、危機管理に当たる決意でございます。

さて、本日の総合教育会議におきましては、協議議題として『“たくましい安曇野の子ども”を目指す安曇野市立小・中学校の将来構想（案）について』提案をさせていただきます。今後の安曇野市の教育の方向性についてご協議いただきたいと思います。

本日も有意義な会議となりますよう、よろしくお願い申し上げます。

教育部長 ありがとうございました。

◎協議議案

教育部長 それでは、4番の議事に入らせていただきます。

議事につきましては、この会議の主催者であります宮澤市長よりご進行をお願いいたします。

市長 それでは、しばらくの間、議事進行を務めさせていただきます。それぞれ皆様方のご協力をお願い申し上げます。

まず、“たくましい安曇野の子ども”を目指す安曇野市立小・中学校の将来構想（案）について、事務局の説明を願います。

教育部長 それでは、資料の説明を担当からさせますが、準備をいたします。しばらくお待ちください。

学校教育課長 それでは、よろしく願います。

“たくましい安曇野の子ども”を目指す安曇野市立小中学校の将来構想（案）について資料1、概要版により説明。

市長 ただいま事務局のほうから、安曇野市の小中学校の将来構想の方針（案）について説明がございました。それぞれ委員の皆さん方から屈託のないご意見をお話しいただければと思いますので、よろしく願います。

いずれにしても、子どもが年々少なくなってしまうという現状を認識していただいたように、高校再編もそうでございますが、いずれにしても、子どもが少なくなるということはどうしても前面に出さざるを得ない、出てきてしまうんですけれども、これらも踏まえて将来の在り方、子どもの教育のことについてご意見をいただきたいと思っています。特に明科のほうの減り方がちょっと激しい、合併以来2,000人近く人口が減ってしまっているような状況もございます。潮沢地域が一番落ち込んでいる。かつては分教場があった地域ですが、子どもの数が減って、時代とともに大変な地域だなという思いは致しております。ただ、安曇野市全体を見たら、明科のみならず、堀金のほうも若干減ってきてしまっているところ、穂高・豊科の地域は人口はそんなには減らない、何とか持ちこたえているという状況であります。

唐木委員 ありがとうございます。

では、少し説明をさせていただきたいと思いますが、今回のタイトルのたくましい安曇野の子どもを目指す教育、学校の将来構想という形で書かれているわけなんですけれども、私はこの将来という言葉をもっと身近に寄せて考えていかなくちやいけないんじゃないかなと

いうふうに思っています。というのも、もう既に今日、先ほど説明があったことなんですが、既に手をつけられていることもありますので、今日からの新しい教育の方向というような形じゃないかなという気がするわけです。

それで2点、ちょっと私言わせていただきたいんですけども、小中一貫教育を進めていくということ、ここで提案をさせていただいているんですが、私は小中一貫教育からもう一步進めてもいいんじゃないかなということを考えております。例えば明科地域のことがありましたが、これは市全体として考えていかなくちゃいけないことになろうかと思うんですが、やっぱり義務教育学校まで視野に入れて、そして特色ある明科の教育を考える。安曇野の場合、中学校区の考え方というのは、なかなかそこは外せない地域的な要素があるんじゃないかなと思っているわけなんですけど、明科の人口とか子どもたちのことを考えて、そこにより魅力のある教育ということで、小中一貫教育からさらに義務教育学校のところも視野に置いて将来の構想をつくったらどうかということを思っております。

あと、「安曇野の時間」については、また後ほど少しお話させていただきたいと思いますが、義務教育学校を視野に入れた小中一貫教育を進めていくということを提案したいなということを思っております。

市長 この問題について、事務局、教育長のほうから何かあれかな、一般質問でも出された課題ではあります。将来像についての構想と小中一貫教育、また地域の高校も含めていろいろな構想は教育委員会でも持っているようですから、そこまで説明していただけますか。

教育部長 今市長が申し上げましたとおり、今般の議会一般質問で唐木委員の言われた点のご質問がございました。その中で、まず市長のほうからご答弁をもらえた内容についてご説明申し上げますと、小学校・中学校の統廃合については、現在教育委員会が検討を進めており、明科3校、明北小、明南小、明科中学を研究指定校とした小中一貫教育の成果を見ながらまずはソフト面の充実を図っていく。その上でハード面について考えていくという流れではないかというように思っている。また、市教委が来年度中に策定する小中学校の将来構想の中で一定の方向性を出して、それを踏まえながら具体的な実行計画を定めていくことになろうかと思う。いずれにしても、学校は地域の重要なコミュニティーであるので、保護者の皆様や地域の皆様の意見をしっかりと聞きをして、慎重に取り組んでいかなければならない課題であると考えているという答弁をいただいているかというように思います。

唐木委員の今のご意見ございました小中一貫教育をもう一步進め、義務教育学校の創設をということでございますが、お話にもございましたとおり、その義務教育学校の素地を一番

備えている地域は明科であること、また、小中学校の立地から考えても、一番義務教育学校としての条件が整っているのは明科3校になろうかと思います。

以上から、義務教育学校の創設については、将来構想の中に盛り込むことについて検討させていただきたいというように思います。

市長 新年度から地域の意見を聞くような方向で進むということなんだよね。

教育部長 はい。

市長 いつまでにするという目標はあるわけかい。

教育部長 義務教育学校の設置は県内においても進めてございますけれども、やはり構想からその実現までは3ないし4年かかっているというような状況がございますし、これは全国的にもそのような統廃合に関しては3年から4年程度の期間がかかっているということでございます。したがって、実現には少なくとも3ないし4年はかかるものというように見込まれております。

市長 新年度から明科が一番小中学校、明北と明南、明南と中学が同じような場所にあるということから取り組みやすいんじゃないかと、人口減少も踏まえて教育委員会では一步踏み出したと、そんなことであります。よろしいですか、何か。

唐木委員 関連してなんですが、例えばそのときにどこかの学校を廃止するというのも、それも一つの選択肢になるわけなんですけれども、例えばこういうことも可能じゃないかなと私は思っているんですが、やっぱり地域の中で子どもを育てていくよさはいっぱいありますので、例えば小規模の学校について分校化してみると、低学年のうちはその地域の中で、その分校の中で地域が関わってそして育てていく。そしてさらに大きな集団の中で切磋琢磨するような集団が必要になったときは本校のほうに移っていくというような、ダイナミックな学校もあるんじゃないかなと。安曇野市モデルみたいな形のものというのも柔軟に考えていって、そしてできるだけ早い機会に住民の皆様とか、それから市の皆様とか教育委員会も含めてやっぱり議論を重ねていかなくちゃいけないと。その3年4年かかっていくというところもやっぱり議論の過程を透明化して、そしてつくり上げていく段階から大勢の方々の意見とか、意向というものを大事にしていく必要があるんじゃないかなということを思っているんです。結論が、ある形ができてから、ではこれでどうだというような方法もあるのかと思うんですが、やっぱりそのところに。

市長 どういう形にしていくかというのはこれからだと思うんだけど、ようやく動き出すということなんです。幼児教育の面では明科北保育園、今年はやまほいく、自然保育を中

心にして特化した幼児教育をやりたいというので、民間活力を導入するということから、幼児教育の場合は、民間のくじら雲を経営している依田さんが、市の職員と一緒に1年間実習というか子どもたちの教育をして、令和4年からは自然保育に特化した民間経営の、公設民営ということになりますが、そんなことで幼児教育のほうは進めるという方針は出ております。ただ、義務教育の場合はこれから話をという状況で、目標は先ほど部長が言ったように、3、4年かかるんじゃないかということなんです、それまでに子どもの推移の中で単学級になっちゃって、今も単学級かな。

教育部長 明北小に関しては全ての学年で単級になっております。

市長 何人くらいがいいんだろうね、その学校運営ができるのが。小規模なら小規模のいいところもあると思うし、そうはいつでも切磋琢磨、あるいはいろいろな運動競技なんかをやるには、あまり小規模過ぎちゃうとそれが成り立たないという場合もあるし、その辺は教育長の構想的なものがありましたらちょっと話の議題にしてもらって、意見を聞かせていただければと思います。

教育長 現在の明北小学校の各学年の児童数を見ますと、2年生が8名だったですか、1桁の人数でありますけれども、他の学年は2桁の人数がおります。出生数から見た令和7年までの予測によりますと、2桁くらいの人数では維持できるというような感じでは予測されているんですけども、いずれにしても、今回の構想は、まずは安曇野市内全部の小中学校の望ましい在り方を方向づけしていこうということで、小中一貫教育の導入を考えております。したがって、明科地域は確かに人口減、子どもの数が減ってきているんですけども、例えば県内の他地域においてもいよいよ人数が減っちゃって、もうこれは将来義務教育学校くらいにしていけないと学校維持が難しいぞというふうになって、これは適切な言い方が分かりませんが、やむを得ずやっているようなところもあるようにお聞きしているんですが、明科地域の場合はもう既にやっていけないということではない。今の段階から子どもたちをどうするか考えていこうということで進めているので、私は、仕方なく減っちゃって仕方ないからどうしようかじゃなくて、先ほど市長も言われているように、少人数のよさもありますし、いろんな意味で特徴のある地域、学校でありますので、この地域でしか学べないとかここならこういうことが学べるという、この特色や魅力をもっと高めたような小中一貫の教育。それは夢を描ける一番いい場所じゃないかなということで提案しております。幸い指定校研究を公募したところ、真っ先にこの明科3校が手を挙げてくれて、今大変意欲的にこの在り方を検討してくれておりますので、是非そういった声も具体化できればいいなとい

うふうに思います。

また、明北小に運動会なんかで招かれていきますと、地域の皆さんがあれはどここの孫だなんていって、走っている子のみんな顔が分かるような、そういう地域性があるんですけども、そういった一体となってやっている中にも、やはりこんなに子どもの数が少なくなって大丈夫かい、というような声も聞かれるというのも事実です。そういうことを考えると、今3校で考えているのは、例えば社会見学でバスに乗ってどこかへ行くというようなときには、同じ学年同士、明北、明南の同じ学年と一緒に社会見学に行くというようなことで、ふだんは別々に学んでいても、そういう行事を一緒にすることによってふだんから同じ地域の学ぶ仲間だというような意識づけをしていくことは、もう今すぐにでもできるというふうに思います。そんなことをしながら少人数のよさと、それからデメリットといいますか、そういうことをどういうふうにしたらメリットにできるかというような視点でやっていながら、この小中一貫教育をまさに安曇野市全体を先導していくような形でできればいいなど、こんなふうに期待をしているところでございます。

市長 当面の課題と将来にわたっての課題、二つあると思うんですが、当面は2クラスくらいは何とか令和7年くらいまでは維持できると。それから、後の課題が浮上してきているわけです。安曇野市全体を小中一貫教育にしていくと、こういう方針は決定しているわけだね、協議会か何かでは。

教育部長 提案しております。

市長 それで、まず教育委員会の先生方、意思統一はできているということでもいいか。

教育部長 整っております。

市長 では、一般の皆さんが小中一貫教育にする将来像というか、どういうメリットがあるかということが理解をされているのかどうか、ちょっと疑問に思うんだよね、私個人的には。だから小中一貫教育のメリット、子どもたちにどういった影響が与えられるとか、そんな思いがあるかということについて、あれかな、もう一回おさらいじゃないが、勉強しておく必要があると思うんだよ。それでそれを市民の皆さん、とりわけ保護者であるとか、あるいは先生たちからも理解をしてもらっておく必要があると思うんだよね。

教育部長 それでは、改めまして小中一貫教育の導入で期待されることについて、再度ご説明をいたします。

学校教育課長 資料1により説明。

市長 安曇野市としては、文科省の進める特例校制度の活用というのは手を挙げているという

ことか。まだこれから。

学校教育課長 まだ全く挙げてはいないです。

市長 これはいつまで。ずっと続く、制度は。時限立法じゃないよね。

学校教育課長 これは継続的な制度でございます。

市長 いつ頃から始まっている制度か。

学校教育課長 ちょっとお調べします。

市長 はい、いいです。

他にありますか。いずれにしても、近い将来だと思うんだけど、そんなに遠い先じゃない、取り組んでいかなければいけない課題であるということでもあります。

他の委員さん方、ご意見ございますか。

須澤委員 先ほどの説明にもあった1枚の紙にまとめてある、目標として将来構想の黄色い部分、上のほうにあります、目標の二つあるうちの二つ目です。「行きたい、学びたい、地域から必要とされる魅力ある学校の創造」。これが一番の大事な点だと思うんですけど、これが今話題になっています近い将来に生徒数が減っていくだろうと思われて、今出ておりました明科地区の3校、ここがこの魅力ある学校づくりに絶好の機会だろうと思うんです。そのためには、今その特例校制度もそうだと思いますが、具体的には教科担任を小学校のほうも取り入れ、中学になって急に教科担任になって、先ほどお話に出た中1ギャップとかそういうふうになっていくわけですので、早くから小中一貫として教科担任制を取り入れて、例えばつまずきも最初のうちに解決できるようにするには、習熟度別学習、これも一つの手だと思うんです。つまり職員の配置数を増やしていくということですね。それが特例校の中に出てくると思うんです。そういう研究を明科の3校でやっていただいて、これがひいてはこの安曇野市内全ての中学校において、いいことは取り入れていっていただければいいんじゃないかなと思います。

ちょっと話はそこから飛ぶんですけども、親御さんたちが自分のお子さんを小学校時代から私立へ出したり、中学校の段階から中高一貫のところへ出したりというのは、やはりそこに魅力を感じているからですよ。どこに魅力を感じているかという、やはりお子さんの持つ能力を十二分に発揮してくれる学校だと思うからです。だからそういうお子さんの能力を引き出す手だてをこのように明科地区で例えば始めると、これは一つの魅力づくりになると思うんです。今でも可能ですけれども、明科地区の人たちだけではなくて、通える人は安曇野市内のどこからでもそこへ行けるくらいの構想で行ってほしいと思います。です

ので、明科、実験校的な意味合いが非常に大きいし、可能性は十分あると。明科地区も人数が少ないですから、小中と。ですから個別学習的に、習熟度別に学習を取り入れれば、個人に目が行き届く教育が可能になると私は思うんです。それによってこの地域の人たちが、いや、明科の小中一貫校へ行かせたいなというふうな気持ちになっていっていただく、それが施策として出てくるんじゃないか、その可能性があると思うんです。

1学年の中が全部1桁であったり、各学年が1学級しかないというのは、ちょっとこれは職員数が非常に少ないから、学校の行事をやるにしても何をやるにしても大変ですね。今現在、明北小は大変だろうと思います。ですので、まず先ほども教育長のほうが話されていましたが、年間計画の中に社会見学が必ず両方の学校にあるわけですので、その年間計画表を統一して、明科地区にもお子さんの家庭だけではなくお配りをして、こんなふうに社会見学を2校でそろって行きますよとか、その他行事はこのように一緒にやりますというのを、地域にPRと言っちゃ何ですが、周知をしていくということも必要だろうと思います。それから、この間3校の校長先生と教育委員との懇談会がありまして、私も教育課程や学校行事について、早くに今年度のうちに3年度の意思統一をしておいてほしいと要望を申し上げましたけれども、それが早くにできていれば、今度の年度がもう社会見学等は2校でスタートできるように、是非今年度は明科地区で小中一貫、さらには義務教育学校に向けてのスタートを3年度からやっていっていただければいいなというふうに私は思います。

市長 今の要点は分かったかな。少しコメントがあったら。

教育部長 私のほうからご説明申し上げます。

先ほどこちらのほうからご説明いたしました教育課程特例校制度につきましては、国、文部科学省が平成30年度に創設された制度でございます。例えば総合的な学習の時間において「安曇野の時間」を取り入れて、新しく教育課程を編成することができるというように解釈をしておりますので、一歩進めた特色ある教育が可能になると捉えております。したがって、例えばですけれども、同一中学校区内にある小学校、例えば堀金小学校、それから堀金中学校が、それぞれ例えば先生方がゲストティーチャーなりに、中学の先生が小学校へ来て教えるとか、様々な可能性があるというふうに考えておりますので、先ほども須澤委員からのお話もあったように、小中一貫教育は非常に期待できる部分が大いと考えております。

市長 これは私のほうからあまり意見を言うことは大変よくないとは思いますが、司会という立場があるんですが、これは将来構想の中で、「行きたい、学びたい、地域から必要とされる魅力のある学校の創造」ということはよく分かるんですが、この「行きたい、

学びたい」というのは、今義務教育で学区があるわけだよね。辰野町が学区を取っ払えというように町長が言って、教育委員会と相談しなかったというようなことで、もう一回出直しになっているんだけど、これは取り方によると、「行きたい、学びたい」というのは、安曇野市でも学区を取っ払ってどこでも好きなところへ行ってもいいよというようにも取れるような気がするんだけど、まず地域から必要とされる魅力ある学校をつくることによってその地域の学校へ行きたい、学びたいという思いを持ってもらうということには、取り方によっては全安曇野市、何かどこでも自由だよというようにも、魅力ある学校を選びなさいと、高校教育とかあるいは大学教育、そういうのと変わらないからね。

教育部長 ごもっともな指摘だと思います。行きたい、学びたい学校というのは、要するに小中一貫教育、あるいは特色ある教育をもっともっと推進いたしまして、あるいは先ほど課長から説明があったように、小4ギャップ、あるいは中1ギャップというものを取り払って、子どもたちが本当に嫌だ嫌だじゃなくて、学校へ行きたい、楽しいから行きたいという、そういうものをまず全市で目指していくという姿勢でございます。その中で、市長が今おっしゃったとおり、あるいは須澤委員からのご発言にも重なりますけれども、例えばですけれども、明科地域に小中一貫教育をさらに発展させた義務教育学校をつくれれば、是非遠くからでも通わせたいという保護者の方もいらっしゃるかもしれません。そういう場合には、明科地域に限定するのではなくて、市域全体から通学できるようなことを考えることも一つの方策だというように考えております。

市長 将来そういう枠を取っ払うということも視野に入っているということ。

教育部長 はい。

市長 それでいいんだね。

教育長 それは全ての学校を取っ払うということではなくて、例えば明科地域にそういう新たな学校を、義務教育学校、もしなればですが、義務教育学校というのは、校長先生が小中もう1人なんです。二つの学校が並んでいるというのではなくて、二つの学校、小中合わせて1人の校長先生が一つの学校ということなので、よりはっきりとした方針がそこで出せるわけです。そうなったときに、例えばこの学校は安曇野市内全域から通えるというような、学区の見直しは考えられるということでもあります。それから、市長さんおっしゃるように、辰野町のように全ての学校、好きなところに行けるというようにも取れるというのは、私どもこれを考えたのはもっともっと前から考えていたことなものですから、辰野町と重ねるとその中に読めてしまうのですが、もともとの発想は、松本国際中学・高校が新たにこの4月か

ら中学校を開設して募集を始めるんです。安曇野市内に住所があればこの学校に行くという指定が自動的にされるんですけども、いや、地元の学校へ行くより私立の学校へ行きたいというふうになっていけば、これは地域の学校だから地域の子どもが当然のように待っていれば来るという時代ではない。学校ももっともっと魅力や特色をはっきりと出して、地域の子どもたちが喜んで通ってくるようなそういう学校づくりをしていかないと、これから先みんな私立に行っちゃうようなことになりかねないぞということで、この「行きたい、学びたい」と、「地域から必要とされる」と、こういうくだりを考えていたわけでございます。どの学校へも好きなように行けるという辰野方式とはちょっと違うんですけども、読み方によっては。

市長 ありがとうございます。

他にございますか。

はい、どうぞ。横内委員。

横内委員 私は明科が地元なんですけれども、これほどまでに少子化の波が来ているという現実を、しっかり見据えなければならぬときが来たんだなと思います。先ほど教育長がおっしゃったように、成り行き未来じゃなくて、ありがたい学校の未来を描いて私たちは話し合いをしてまいりました。そして、事務局の方がこのように分かりやすくまとめてくださいました。

明北小の親や子は、今の明北がいい、今の明北でいいと言っていて、特段話していても困った感じはないです。手厚く見てもらっていると、むしろ好意的に話す方もいます。2年生に2人いた女の子が1人転校してしまって、女の子がクラスに1人だけになってしまったという不安をお話ししてくれた人がいました。それは困ったなというふうに私も思いました。小学校は子どもが接する初めての大きな社会だと思いますけれども、そこが家族と同じくらいの規模だと、やっぱり中学に入ったときの環境に適応が難しいかなとも思います。明北小の長瀬校長が、こども園から一緒だから語らなくとも相手に伝わるという、いい面も悪い面も両方あるというふうにおっしゃっていました。

また、普通学級は減っているけれども、特別支援学級は市内に増えているという現状があります。子どもの数が減っているんですけども、今学校の中でどういう変化がもたらされているのかということも知る必要があるし、ただ小中一貫教育ということでも駄目かなとも思います。明北小はいろんな活動に1年～6年までの縦割りの活動をしているんですけども、学校を出てしまえば社会はそもそも異なった年齢から成る社会で生きていますので、この動

きやすい規模を逆手に取って、こういう小中一貫教育でも異年齢の縦割りの活動ができるのも魅力になるんじゃないかなと思います。

今回のコロナウイルスで大きな社会変化が起こったときに、国とか誰かの助けを期待するんじゃないくて、日頃から自分の力で生きる自立力とか、そういったサバイバビリティを強化していくことが重要なんじゃないかと感じた人は世の中にすごく多いと思うんですけども、そういう世の中の変化に対応できる力を身につける教育というのを小中一貫教育でしていけたらなと個人的には思っております。

市長 少人数ですばらしい教育というか、個々の個性を重んじる行き届いた教育ができると思いますし、また、複数のクラスがある学校は、それなりの大勢で授業なんか、催し物もできるというよさもあって、どっちがいいという結論を出すことは困難だと思います。ただ、子どもがいなくなってしまうって運営ができないというようなことに今なりつつあるということから、明科がある面では議題に上がっているんですが、これは一般の捉え方が、明科は子どもがいなくなっちゃうから先行して中高一貫教育をやらざるを得ないんじゃないかというような捉え方になってしまう可能性があるんだよね。であるならば、明科以外の学校も一つ、例えばあまり減らないような地域でも小中一貫教育を進めてみて、お互いにこのメリットをどう出すかということも大事なことじゃないかなと思うので、明科だけに特化しちゃうとやっぱり地域の皆さん、若干抵抗を感じる面が出てくるような気がするんだけど。その辺は、教育長、どうですか。

教育長 決して明科地域のみを小中一貫教育というふうにするということではなくて、全ての地域、7中学校区の全ての学校に小中一貫教育を導入していくと。ただし、全ての小中が施設分離の学校なものですから、一つ屋根の下に小中が一緒になるということは新規に校舎でも造らない限り生まれてこないんで、今ある校舎を利用するというのは大前提であります。そういう中でできる小中一貫教育をやっていると、たまたま明科地域は明南小、明科中が隣接の関係にあるので、より効果的な小中一貫教育が実現できるという立地条件があるということで話題に上っているわけですけども、あくまでも安曇野市内全ての小中学校が小中一貫教育を導入し、それぞれの地域で工夫して今後につながるように考えていきたいというのが基本の方針であります。

市長 教育委員会の教育長の思いと一般市民の捉え方というのは、どうしたってギャップが出ちゃうものだよ。明科を先行させるということは、過疎地になって子どもがいなくなったから先行させるというような捉え方になってしまう可能性があるんだよね。例えば三郷地域

も長野県一のマンモス校だと言われているが、今1,000人切っている。それで小学校、中学校、道を挟んで隣同士にあるということになれば、一つのモデル校として推進するということも可能だと思うんだよね。あるいは豊科南中と南小の間も、こども病院があつて少し離れているけれども、近いところにあるんだよね。だから、他の地域もある程度共同でというか、同じような時期に進められるようなことも、将来その方向で持っていくということになれば、モデル的にやるということが大切じゃないかなという思いは個人的には持っているんだけど。

それで、やっぱり選ばれる学校にその学校をしていくというのは、今までも教育長、教育委員会の先生方と話をしてきたんだけど、やはり指導者、いい指導者がいるから、安曇野に来ればこういう先生から学びたいという、指導者が求められないという魅力ある学校にはならないと思うんだよね。例えば運動なら運動に特化する、あるいは音楽なら音楽に特化して、どこのコンクールなり大会に行っても安曇野のどここの学校はレベルが高いと思われるような特色ある学校づくりというのも、これは私学じゃないから難しさはあると思うんだけど、やっていく必要があると思うんだよね。今はいいが、これから先どうなるか分からないけれども、公立高校が私学に負けてしまうような時代が来る可能性だってなきにしもあらずだと思うんだよね。私学は生き残りでやっているから、ある意味。

私だけがしゃべってもいけないんだけど、他に何かございますか。いずれにしても、今日は将来構想の案について意見をいただいて、これがある程度というか、認めていただければこの方針に沿っていくということですが、決定された案について見直しということはありませんか。

教育部長 今日のご意見を踏まえての修正は可能だと思います。

市長 何かご意見ありましたら。

二村さん、お願いします。

二村委員 この将来構想は十分なデータとかまた資料をご用意していただいて、各種団体の方々とかいろんな保護者・地域住民・専門家の方の意見を聞いたりして協議会での議論や研修を含めて進めてきたもので、内容はとても充実した実効性のあるものになっていると思います。小規模だけを理由に統合することは適当ではないと思うので、地域ごとに個別に検証すべきだと思いますし、また、それを目的にもう進んでいることだと思っています。

先ほど課長より説明のありました小中一貫教育の導入に期待されることの中で、異年齢交流の機会の創出に注目をしています。数年前に平和のつどいがあったときに、縦のつながり

がすごいなという思いをしたことがありました。オープニングセレモニーで堀金小学校の合唱部の合唱が始まり、それから今度は三郷中学校の合唱もあって、そして平和についての作文の発表に加えて、市外からの通学の生徒さんも多い高校生の活躍が物すごかったです。穂高商業高校演劇部の朗読劇、もう本当に引き込まれるような出来で、拍手が止まらなかったことを覚えています。そして、南農のボランティア部の方たちの運営に対しての協力、司会等も含めてとても好意が持てました。様々な場面で安曇野を背負うであろう若者が頑張っている姿がとてもすてきで、安曇野市全体の縦のつながりが大人になってもつながっていくのではないかなと期待の持てるものでした。この先輩たちを見て私自身は育ってきているなと感じましたし、また、参加した児童生徒たちも影響を受けているはずだと感じています。

また、市内小中学校でも、ふるさと安曇野を知るために「安曇野の時間」というものをつくっていくわけですが、実際にもう進んでいます、この際に、県立高校の「信州学」として地域素材を教材として活用しているというのを参考にしながら、以前あった安曇野検定、今はないですけども、学習の充実に向けて、また先生方にも一緒に学習の機会を持ってほしいなと、郷土への愛着を持ってほしいなと感じました。

先ほど市長がおっしゃられた施設分離型の小中一貫校ということで、この冊子の21ページ、22ページにあるので、中学校区ごとに進めていこうではないかというような指定校研究も進んでいくのではないかなと思います。

市長 ありがとうございます。

何かコメントがあれば。

教育部長 今の二村委員のご意見も含めまして、まずはこの将来構想を案として確定させたいと思いますので、今後修正案等整いましたら、市長、それから委員各位に決裁をいただく形でお諮りをさせていただきたいと思います。

市長 これ、行政手続きの中でパブコメはやったということか。

教育部長 今回の総合教育会議で議論いただいたご意見を反映させたものを成案として、それを基にパブリックコメント、市民説明会に入ってもらいたいというように考えております。

市長 これは今日の会議が終わった後。いずれにしても、25ページにあるように、大勢の皆さんに審議をしていただいた、そして集約をされた、こういうことですが、これからこれを基に各地域の意見を受けるということだね。パブコメをやってもあんまり意見が出ないんだよね。変な話だけれども、ごく限られた皆さんの意見だけで全体の意見に果たしてなるのかどうか。ただ、広く市民の皆さんの意見を聞いたという手続上の問題を踏むことだと思います。

他にございますか。

はい、どうぞ。

唐木委員 一つお願いしたいと思えますけれども、「安曇野の時間」、ふるさと学習の時間ですが、これに関わってのことなんですけれども、私大変これに期待をしているわけなんです。この「安曇野の時間」というのも、これは安曇野市民として育つ子どもの育成というそういう時間であると思うし、キャリア教育の時間でもあろうかと思うんです。それで、この時間が成立していくためには、従来から各学校でやっているものと、それから全市的に共通して取り組む中身も出てくると思うんです。そのときに教育委員会としては、学校教育課もそうですし、文化課、それから博物館とか美術館とか文書館もそうだと思いますが、総力を挙げて当たっていかなくちゃいけないと思うんです。そのときに、やっぱり今構想が進んでいるわけなんですけれども、例えば新市立博物館等の役割というものすごく大きくなっていくんじゃないかなというふうに思うんです。そのときに、教育委員会だけではなくて、やっぱり全市的に、市長部局のほうも含めてこの「安曇野の時間」を通して安曇野を愛する子どもたち、またいつかは安曇野に戻ってくる子どもたち、それで安曇野で力を発揮してもらおう市民を育てていくという視点で、市長もお力添え、さらにはリーダー性というものも含めてお願いをしたいなというふうに思うんです。単にふるさと学習という意味ではなくて、安曇野市民を育てていくんだという、そういう大きなテーマがここにあるんじゃないかなと。目標の中に「郷土への愛着と誇りを持ち、志を高く未来を切り拓く」、これは教育委員会だけのテーマじゃなくて、本当にみんなで力を合わせて子どもたちを育てていくテーマかというふうに思うわけなんです。是非そんなところも心に留めていただければありがたいかなと思います。

市長 何かあれば。

教育部長 今いただいたご意見につきましても、事務局としても全くそのとおりに思っておりますので、この後の構想を受けて策定いたします実施計画にもしっかりと反映をさせていければと思います。

市長 これも個人的な考え方になるのかもしれないけれども、安曇野にはいろいろな企業があって、働く場所があるんだけど、東京に行く、あるいは大学まで行っちゃってなかなか戻ってこられない。一つには安曇野の魅力というか、今ある企業、働く場所があるよということをもう少し子どもたちにしっかり植えつけていかないと、その辺の就職口というか、将来の生活を立てる上での不安というものがあって、もっと安曇野の企業の内容を学校教育の中で、社会科の勉強もあると思うけれども、何か工業会なり商工会の皆さんと連携して知ら

せていく、そして安曇野へ帰ってきてでも安心して暮らせるよという意識を持ってもらうことが大事だと思うんだけど。

企業の中でも安曇野へ来て創業したいという企業がもう年間何社もあって、受け入れる場所がないというような状況もある。一方では安曇野のよさを残せ、田園風景を残せというようなことで来るんだけど、一方ではまた開発をすればそれが崩れていっちゃう可能性もある。どういうまちづくりをしていくかということで、今土地利用の在り方についてもいろいろ条例をつくって、守るべき農業、林業、それから開発すべき地域をどういうふうを選択していくかというのが求められている課題の一つであって、そういうことにも積極的に今取り組んではいますけれども、ただ、なかなか全ての皆さん方の希望どおりにいかないというのが現実ですし、公共施設なんかは総論では維持管理が大変だということであっても、そのところを縮小とか廃止とかということになれば当然抵抗が出てくるのが当たり前、これが民主主義の世だと思うので、そういった皆さんとの何というか、利害をどうやるかという努力は、行政として、してかなければいけない課題だというふうには捉えています。

この案について、他にご意見等ございますか。

この案に沿ってこれから地域の皆さんの意見を聞きながら、安曇野教育の充実を図っていくということになるかと思いますが、方向性としては、横内さん、どうですか。

横内委員 方向性としてはいいと思います。

市長 他の委員の皆さん、よろしいですか。時間がちょっと経過して申し訳ございませんが、それぞれのご意見を伺いました。いずれにしても、出された意見等を尊重していただいて、今後成案にまとめていくというような、あるべき方向についてはこの将来構想の案をご了解いただいたということでよろしいですか。

(「はい」の声あり)

市長 それでは、またいろいろな意見があろうかと思いますが、事務局のほうへ、教育委員会のほうへ連絡を取っていただいて、意見を公平な形で反映できるようにまたご理解をいただきたいと思います。

それでは、次に進ませていただきます。

◎報告事項

市長 続きまして、令和3年度の安曇野市学校教育グランドデザイン、これも案でございます。

事務局から説明をしてください。

学校教育課長 「令和3年度安曇野市学校教育グランドデザイン(案)について 資料2」

「GIGAスクール構想の進捗状況について 資料3」により説明。

学校教育課教育指導室長 「交通事故ゼロプロジェクトについて 資料4」により説明。

市長 ただいま事務局のほうから資料No.2、3、4について一括して説明がございましたが、資料No.に基づいてご意見を伺っていきたいと思います。時間が大分経過しておりますけれども、まず、資料No.2の学校教育グランドデザイン(案)について、ご意見あるいは質疑等ございましたらお願いいたします。

ちょっと分からないので教えてもらいたいけれども、グランドデザインの案で、市の研究指定校というのはどこが指定するわけだい。県教委、あるいは中信教育事務所、県。

教育部長 これらの研究指定校につきましては、まず各学校にこういう研究指定校を指定したいから、どうか賛同する学校は名のみ出ていただきたいということから始まりまして、明科中学校区の関係、これは引き続き明北・明南小、明科中にやってもらいますが、新たにICT機器を積極的に活用した授業づくり、それから国型コミュニティスクール移行に向けての体制づくりについては、市の教育委員会が立候補に基づいて指定をさせていただいたという形でございます。

市長 市の教育委員会で指定するという事は、手を挙げない学校は消極的というふうに捉えるのか。せっかくGIGAスクールをやったり電子黒板を入れる、あるいはパソコンを入れている。技術的な面での向上も、一律ある程度先生たちが技術指導できるような知識を持たないという、学校間格差が義務教育の中でできてしまわないか。

教育部長 まずはこれら指定校にいろいろ課題解決に向けた研究をしていただいて、それを市内の小中学校に満遍なく広げていくというような形を取りたいというふうに考えています。

市長 この指定校に指定をしてほしいというのは、各学校の教職員というか先生たちの意向というのは、反映はされているわけかね。あるいは校長先生の学校運営方針によって左右されることになるのかね。

学校教育課教育指導室長 募集要項という形で配らせていただきまして、一定期間を経た上で名の上を上げていただいているという経緯がございます。ですので、各学校においては、校内で十分話し合いをした上で名の上を上げていただいているものと思っております。

市長 教育関係について勉強不足でいけないけれども、指定校になれば特別、講演会をすとか指導者が行くとか、何か指定校じゃないところと指定校になったところの差というか、ど

ういうものが特徴として挙げられるのか。指定校になることによるものと、ならないものとの違い。

教育部長 優先的に予算とか人材を投下するということではございません。来年度からこういうのを予定しております。ICT推進員と連携をして電子黒板あるいはタブレットを活用した授業づくり、これを各研究指定校で実践を重ねていただいて、子どもたちから感想を得たり、ということ进行分析しながら新しい授業づくり、教材づくりを行っていただいて、それを他の小中学校に広めていくというような役割を考えております。

市長 指定校にして何か新たに学ぶというか、指導するというか、講演会なり講習会なり何かやるということ。指定校じゃないところはそういうことはどうなるのか。

教育部長 指定校に例えば発表する機会をつくってあげて、そこへ他の学校から学びに来るといようなことは考えられると思います。研究のまとめみたいなものを発表するといような。

市長 あまり理屈を言ってもいけないんだけど、指定校にするといると、何か特別な授業研究をするとか、特色のある学校づくりにつながっていくのか。指定校の目的といのがあると思っただけけども。

教育部長 やっぱりそこは何分にも新たにチャレンジする分野でございますので、ある程度市教育委員会が、例えばICTなら豊科北小・穂高北小・穂高東中に入れていただいて授業を見学させていただいたりとか、あるいはその反省に基づく新たな授業づくりですとか、そういったものを市教委と協働して組み立てていくようなことをまず考えております。それをさらに市内の小中学校に広げていくといようなイメージでおります。

市長 新規の事業は(2)と(3)とあるわけだ。少なくとも電子黒板を入れたりパソコンを入れたりといのは、これは活用した授業づくりにどこの学校も取り組んでもらわないといけないんだけど、技術的な面とか指導力の面で格差が生じないような体制を取ってもらいたいと思います。

何か他に意見はございますか。

横内委員 来年度、令和3年度の安曇野市学校教育グランドデザインを校長会でもお示したかと思っんですが、校長先生方がこの案を見てどんな意見を出されたのか、ちょっとお聞きしたいなと思います。

市長 教育委員会事務局、どうぞ。

教育部長 校長会に出席をいただいている赤羽室長のほうから、その点についてご説明をいた

します。

学校教育課教育指導室長 こちらの原案を示し、その後、今日お示ししました資料のものもお示ししました。「自ら動く児童生徒」、「学び続ける教師」、「地域へ飛び出す―地域との連携を強める学校」。ここの部分につきましては令和2年度と同様の柱ということで、これはグランドデザインを反省といいますか振り返ったときにも、是非これを継続してほしいというご意見がありましたので、ここの部分は大きく賛同をいただいております。全体的にそうなんですけれども、特に私が説明をさせていただいて印象的だったところは、「学び続ける教師」という部分で、「明るく元気に、笑顔で子どもの前に立つ教師」、こういう学校づくりをやはり校長先生を中心にしていくという、そういったところの内容について大きくうなずいて、やはり活力のある学校をつくっていく、そういった方向性を示せたかなということをおもっております。

市内全校で取り組む内容につきましては、各学校長もこの内容については承知をしておりますので、ここのところを全校で取り組んでいけるものと思っております。

市長 よろしいですか。

横内委員 ありがとうございます。

市長 他にご意見はございますか。

横内委員 交通事故ゼロプロジェクトのほうでもいいですか。それはまだですか。

市長 資料No.2について今ご意見を伺っているので、次に進みたいと思います。

横内委員 いいですか。手作りお弁当の日の実施とありますけれども、これはもう全校で取り組むということになるのでしょうか。

市長 全校で取り組む内容、(1)から(7)まで、これは研究指定校も全校で取り組んでもらいたいという思いは個人的にはあります。分けた理由がよく分からないんだけど。

教育部長 もちろん全校で全力を挙げて取り組んでいただく課題であります、ICT機器の活用につきましては。その中でも安曇野市教育委員会としていろいろなデータを得たり、そういうところも指定をさせていただかなければならないということもございますので、こういう形を取っているということでございます。

それから、横内委員からのご質問の手作りお弁当の日でございますけれども、これは本当に重要な取組であるというように考えております。まさに食育の基本をなすものというように考えておりますので、いきなり難しいお弁当を何品も何品も自分で作るということではなくても、例えば最低でも1品2品は作りましようとか、そういうものから始めて全校へ広げ

ていきたいというように考えております。

横内委員 ありがとうございます。

私も弁当の日を実施して広めていくということにはとても賛成しているので、そのような方向でいいと思います。ありがとうございました。

市長 ありがとうございます。

他にございますか。

なければ、次に進んでよろしいですか。いずれにしても、グランドデザイン（案）ということですが、各校格差がないような学校教育の指導をしてもらって、レベルアップを図っていただくようにお願いします。

資料3に入ります。

G I G Aスクール構想の進捗状況ということで説明がございました。指定校をつくりながらもまたこういったICTの普及を図っていくということになると思います。

この資料3について、今までの進捗状況の報告ですが、何かございましたらご意見、ご質問、よろしくをお願いします。

唐木委員 3月11日にICTの推進委員会があるということですので、これを開示していただければと思うわけなんですけれども、ICT活用計画の策定の中で、活用目標のところになります。これはよく言われることですが、使用することだけが目的化することのないようにということが常に言われているわけでありまして。是非中身、内容を活用目標の中に入れられないかなということで、委員の皆さんの意見をよくお聞きいただいて活用計画をしていただきたいというふうに要望いたします。

市長 ただいまの要望についてコメントありますか。

教育部長 いただいた要望も踏まえまして、教育委員会でお諮りする目標に入れ込んでもらいたいというふうに思います。

市長 先生、よろしいですか。

唐木委員 はい、結構です。

市長 他に何かご意見等ありますか。

横内委員 質問させていただきます。

先生方はICTを活用した授業づくり、G I G Aスクール構想について、専門家の存在が身近に欲しいということをおっしゃっていましたが、サポート体制についてお聞きしたいと思います。

教育部長 幾通りかサポート体制を考えておりますので、詳しくは担当から説明をさせます。

学校教育課学校教育係長 学校の先生方を支援する体制といたしまして、まず支援員を指導室のほうに1名配置をさせていただきます。その他に、実際にあくまでも今の段階では予定なんですけれども、端末を導入している業者等からサポート、今国のほうでGIGAスクールサポーターという支援をするメニューがございまして、そちらの活用を考えております。定期的に学校を訪問していただいたりですとか、学校からの問い合わせに対して順番に答えていただける体制ができるような形、また、端末の故障等にも速やかに対応していただけるような、そんな体制を取っていこうと思っております。

横内委員 ありがとうございます。

市長 他にご意見、質疑等ございますか。

二村委員 お願いします。

一番最後の臨時休校の期間中等におけるオンラインによる学習支援のイメージというのがあるんですけれども、学習支援のイメージ、家庭においてということにもつながると思うんですが、家庭による通信環境の格差があると子どもの学び等を保障することが難しくなるのではないかと思います。それについて一つお聞きしたいのと、あと、端末の活用目標が現状各クラス週1回、月1回程度であるとか、令和3年度は各クラス1日1、2回以上というふうに目標があるわけですが、これに対して健康について、目であるとか姿勢であるとか、健康については何か目標はありますでしょうか。

市長 事務局、どうですか。

教育部長 家庭のいわゆるWi-Fi環境等の格差というのは、我々も承知をしております。

多くはないという認識でございますけれども、少なからずそもそもうちにはパソコンを置かないとか、そういう家庭も実際にございます。そういったご家庭へのフォローというものはこれからの課題になるわけですが、例えばですが、移動用のいわゆるルーターみたいなものを貸し出す方法であるとか、あるいはもうそういったものは家庭に置かないという方であれば、その方は公共施設に来ていただくなりして、そこでICTを使って授業等を受けていただくとか、いろいろ検討の経過はございました。したがって、これをさらに詰めて具体化していく必要があるということも考えておりました。これも早急に整備をしたいと思っております。

次に、健康被害の件ですけれども、やはり今後視力の低下であるとか姿勢の悪さ、そういうものに結びつく可能性はあるというふうに認識しておりますので、例えば何分画面を見れ

ば何分休ませるとか、そういったこともしっかりと検討して、指針なりに盛り込んでいきたいというように考えております。

二村委員 ありがとうございます。

市長 よろしいですか。

いずれにしても、臨時休校ということがあまりあっては困るんだけど、オンライン化の時代だけでも、特に教育現場でオンライン学習をすることによる設備投資みたいなことはないですか、今のままでいいわけですか。

教育部長 担当から説明をさせます。

学校教育課学校教育係長 今回のG I G Aスクールの整備ということで、ネットワークも以前とは比べ物にならないくらい高速のもの、1ギガのものを各学校に用意させていただいております。あと、導入しました電子黒板等を活用する中で、新たな設備投資というものは必要ないかと考えております。

市長 必要ないということだね。

学校教育課学校教育係長 端末の貸出しも今導入した端末を使っての学習になりますし、今学習用のソフトを導入させていただいておりますので、新たな設備投資は必要ないかと思っております。

市長 分かりました。

他に何かございますか。

須澤委員 (2)の授業づくりの件ですが、これは私も教員の負担が増えても大変だなと思いつつながら、さてどう活用するんだろうと興味を持ちまして、インターネットでちょっと文科省のホームページにアクセスしてみたんです。そこに実践例が結構載っていました。ですので、各先生方研究して、この結果を待たずに、やはりそういうところもご活用願いたいと思っております。

市長 いろいろな情報は、先生たち自ら勉強されているということだと思っただけだけど。

学校教育課学校教育係長 ただ、須澤委員がおっしゃられたことも、改めて学校のほうにお伝えするという必要であると思っておりますので、貴重なご意見をありがとうございました。

市長 他にございますか。よろしいですか。

いずれにしても、ICTの時代を迎えてということで、これらの指導、教育の資質向上、それから各学校の授業内容にあまり格差がないようなことで進めてもらうようお願いをします。

次に進めさせてもらってよろしいですか。

それでは、資料No.4で交通事故の課題ですが、過日、堀金小学校で、大変残念ですが交通事故が発生しております。通学路以外のところを、子どもさんですが、通ったというようなことがあるようですが、これは子どもたちの事故だけではなく、市においても職員のちょっとした事故が、毎回議会へ報告せざるを得ないような状況があります。命を大切にすることが非常に求められている時代でありますので、お互いにルールを守りながら交通事故ゼロを目指していくということでもあります。

この資料4について何かご質問、ご意見等ございましたらお願いをいたします。

横内委員 お願いします。

(3)の実施してみても改めて気づいたことの中に、①番の登下校時に異なる通学路を使っている児童生徒が一定数いるというところと、教職員の意識の中で異なる通学路を通る児童に対しての指導が改めて必要だと感じたとありますが、自分の子どもを振り返ってみたときに、小学生の頃は、下校のときに児童館へ行く子と一緒に帰ろうよと言われてれば、その子と児童館へ行くほうの道を通って帰ってきたりとか、中学のときですと、部活の帰り、駅の向こうから帰ろうとなるとそちらから帰ってきたりとか、異なる道を帰ってくるのが本当にたくさんあって、でも親としたら、冬の夕方の暗い道を一人で帰ってくるよりは、複数で帰ってきてくれることのほうがずっと安心だったということもあります。学校と全く反対方面の塾へ歩いていく曜日もありましたが、そういったことも親はもちろん分かっていたけれども、学校に届出はしていなかったように思います。これは先生方がこの状況を全員について把握するということがなったら相当な負担なんじゃないかなと思って、これ以上先生の負担は増やしてほしくないし、どうなんだろうと思っていました。分からないのは、学校を出たらもう私は親の責任と思っていましたが、家に着くまでは学校にも責任があるということなんでしょうか。

市長 事務局のほうで、児童生徒の通学路の課題であります、何か答えといいますか。

学校教育課教育指導室長 責任の所在というところになりますけれども、あくまで学校保険の関係の、事故が起きた場合の学校保険の対象というところでは、通学路上の事故につきましては、学校の管理下ということで保険対応の対象にはなっております。ただ、年度の中で、やはり今横内委員おっしゃったように、塾に通うですとか状況が変わってくるという場合がありますので、学校によってはそういった変わった場合には学校に届出をしてください、一声かけてくださいということ呼びかけをしている学校もあります。ですので、本当に全て

逐一全部の把握というところは難しい部分があるわけですが、やはりそういった変わっていくという状況があるということを教職員が捉えて、一声かけていくということがやはり大事になっていくのかなということは改めて感じています。

市長 市でもできる限り道路改良のときには歩道設置を心がけてやっていますが、なかなか全市的に歩道設置というところは進んでいない状況でございます。今子どもたちの命を守るといことで、道路に緑色の線を引いて安全対策を講じているんですが、委員さん言われるように、塾通いなんかのところまでは把握をしていないので、ちょっとそういうところは十分注意をしていただく以外にないかなと。子どもたちはどうしても道草、今はどうか知りませんが、私どもが子どもの頃はあまり自動車もなかったということで、危険性もなかったこともあって、学校で通学路の指定がなかった時代なので、どこを歩いてもいい、田んぼのあぜ道を歩いたりとか、個々の家庭の庭を横切ったりとか、いろいろなことがあったんだけど、時代の流れの中で一定のルールに基づいて通学路を設定して、交通事故をなくしていく、あるいは安全対策を講じる時代になったといことで、これはなかなか交通事故ゼロというのは難しい課題ですが、今のところ大きな、この間入院されたといつか、堀金の例があるけれども、あまり大きな事故というのは発生していないよね。

教育部長 それ以降はそのような重大事故は起きておりません。

市長 他にございますか。よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

◎教育に関する懇談

市長 それでは、今日の議題が終わりましたけれども、全体を通してこういう機会でありますので、委員の皆さん方から安曇野市教育の全体を通して何かご意見等ございましたらお願いいたします。

明科で今やってくれているんだけど、この前議題になった弁当の日。これを少し普及してもらって、子どもと親の触れ合いといつか、食の大切さといつか、食育の一環としてという話をしたんだけど、校長先生たちの捉え方によってなかなか理解されない面があるというようなことを聞いている。その辺は横内委員、明科で経験されたことだと思いますが、今の取組状況といつかは相変わらずですか。

教育部長 赤羽室長にご苦勞をいただいておりますので、ちょっとお話をさせていただきたい

と思います。

学校教育課教育指導室長 明科が精力的に取り組んでいるというところはありません、大きな効果を上げているということも承知しております。来年度に向けては、これから初めて取り組む学校、それからずっとやってきた学校、様々取組の仕方に差はあるわけですが、何らかの形で全校で取り組んでいく方向で今もう既に計画を立てている段階です。

教育部長 全小中学校で今計画を立てています。

市長 できる限り地産地消というか、農業振興を兼ねてこの安曇野のよさを知ってもらう、そんな取組をやっぱりしていきたいなという思いがあります。取り組めるところからというようなことで取り組んでいただくように、前向きに教育委員会のほうで検討してもらっていますけれども、現場の皆さんの理解がどこまで得られるかというのも大きな課題の一つだなと思います。明科は昔からやっているんで抵抗はないということだね。

お母さんたちが面倒だというので、コンビニで買っているというような例もありますか。

横内委員 取組が始まったときにはすごく抵抗があった方もいたと思いますが、取組の効果が上がってきた今は好意的に受け止められていると思いますし、実際自分で料理ができて、家族に対する感謝だったりとか、食べ物に感謝する思いですとか、そういった子どもたちが寄せる思いというのを聞くと、やってよかったなというふうに思います。

市長 ありがとうございます。

他に全体を通して委員の皆さん方から何かございますか。

昔と違って今悩みの一つが、障がいを持つ子どもさんたちが年々増えているというんだね。市では児童クラブの対象が今小学校4年までだけれども、5年、6年と拡大してほしいという要望がたくさんあるわけです。できれば学校の空き教室を何とか活用したいという思いがあるんだけど、障がいを持つ子どもが増えちゃって、1クラス8人だったね。

教育部長 以下です。

市長 30人学級の教室が8人で埋まっちゃうというので、なかなか学校も教室が空かないというんだよね。それでこういう仕切りを入れて30人学級を2クラス、障がいを持つ子どもさんたちが入れるようなことはできないかなと思うんだけど、なかなかそれは学校のほうでも抵抗があるという話だよ。空き教室ができてこない。この原因がよく分からないんだけど、どうしてそんなに障がいを持つ子どもさんが増えているのか。結局加配の先生を、義務教育であっても県のほうでそんなに回してくれないんだよね。だから市の単独で先生方をお願いせざるを得ないと。こういうことを今23人ぐらい。

教育部長 中学校で64人でございます。全体で。

市長 それは市単。

教育部長 市単です。17校合計です。

市長 17校で64人は義務教育にもかかわらず、市の教育予算の中で対応せざるを得ないということに矛盾を感じているんだけど。こども病院もあるもので、なるべくこども病院とも連携をしながらということだけでも難しい。どうしてそんなに障がいを持つ子が増えているのか。こども病院でも原因がよく分からないというんだけど、ただ、アレルギー食の子どもは、ある程度相談してもらえれば、子どもさんが大きくなるにしたがってアレルギー食は解消できるとこういう話は聞いていて、専門の先生を県のほうでもこども病院へ配置してくれているところなので、もっと積極的にこども病院とも連携を深めてほしいという願いは、福祉のほうも教育委員会のほうもしているところなんです。そんな課題があるということだけ承知をしておいてください。

他に全般的によろしいですか。

(発言する者なし)

市長 どうもありがとうございました。

少し時間が過ぎてしまいましたけれども、それぞれいただいたご意見等については、これからの安曇野教育に反映をさせていくように、教育委員会に対してお願いを申し上げたいと思います。

コロナ禍でございますので、十分に健康にご留意いただき、感染防止に努めていただくことをお願い申し上げまして、本日の総合教育会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

◎閉 会

教育部長 それでは、本日の会議事項は全て終了しましたので、閉会といたします。

大変お疲れさまでございました。